

發 刊 に 際 し て

三 田 定 則

人として世の中に生れて來たもの、終局の目的と云ふものは、どんな事であらうか。それは諄々しく説くまでもなく、完全無缺にして有徳なる本統の人間になること之れが其の理想でなければならぬ。然らば、完全無缺にして有徳なる本統の人間になるのには、どうしたならば、よからうかと云ふ問題になるのであるが、これには幾多の方法があるけれども其の最も効果的なるは、蓋し眞理の探究に専心することであらうと思惟する。

眞理の探究に専心する時の氣持は、純眞無垢にして、毫末の邪念のなき全く無我の境地に入るのであるからして、かゝる事を繰り返し繰り返して反復してゐる間には、習ひ終には性となり眞理の探究に精進した人は、知らず識らずの間に完全無缺にして有徳なる本統の聖者に化することになる。

而して若し探究する眞理は、理學的方面の領域であつたとすれば、かゝる人は、完全無缺にして有徳なる本統の人間にして而も立派な理學者であり、若し又検索する眞理は醫學的部分であるならば、かゝる人は、完全無缺にして有徳なる本統の人間であると同時に堪能なる醫學者として或は病者を其の苦惱より救ひ或は病を未然に防ぎ且つは健康を増進すると云う技能を備へたものになる。

故に眞理の探究に精進することは、やがて、一方には高尚なる人格を養成すると同時に他方には夫々専門の優秀なる學者を作ると云う一石二鳥の効果的方策にして將來吾々としては、此の氣持で再出發しなければならぬものと確信する。

我校でも他意味に於て醫學の向上に邁進しつゝあるのであるが、此度眞理の探究の結果を發表するの機關として、用紙不足、經濟不如意の苦しき中を、どうにか岩手醫學雜誌を發刊するの運びにまでなつた。幸ひ大方先輩の御指導を得、漸を追ふて立派な雜誌にまで發達させたいと念願する次第である。